



欽
討
東
海
繪

七
六
五

^ 13
4055
13



門へ13
號 4055
卷 13

永樂堂野依

明治十四年

東京赤坂裏敷丁目

本屋

仇討天貞東錦繪寶貝託巻之亦

目録

大正十年八月九日
本大學出版部 贈



一 服部平馬お身改名の事
兼長九郎一助系名傳の事

一 江戸男伊達今合の事

放駒の事
平高が住居を移した事

羽二重^{うぶふたへ}指^{さし}文^{ぶん}白木^{しろき}の^の着^き母^{はは}の^のせ^せて^てあ
し^した^たれ^れが^が長^{なが}は^はあ^あつ^つ是^{こゝ}と^とん^んで^でち^ちま
ね^ねど^どう^うも^もい^いう^うあ^あら^らう^うこ^こけ^けあ^あや^やと^とぬ^ぬら
ひ^ひく^く平^{へい}紙^しく^くら^らま^ま孔^{こう}亮^{りやう}の^の座^ざ母^{はは}
あ^あり^りと^とれ^れは^は甚^{しや}少^{せう}の^の一^一風^{ふう}を^をど^どい^い
て^てい^いち^ちあ^あら^ら人^{ひと}み^みは^はあ^あら^らり^りら^らら^らあ^あら^らり^り
ま^まで^でな^なり^り以^い来^{らい}い^いえ^え志^しあ^あり^りあ^あら^らう^う
ど^どく^くと^とれ^れら^ら事^{こと}の^の西^{せい}の^の久^く保^ぼと^とあ^あは^はら^ら

り^りあ^あら^ら服^{ふく}形^{かたち}震^{しん}度^どの^の赤^{あか}と^とり^りの^のあ^あり
ち^ちと^とる^るい^いく^く後^ごト^トな^なき^き事^{こと}あ^あり
て^てい^いふ^ふく^くは^はい^いん^んさ^さん^んい^いく^くし^しと^と大^{おほ}
平^{へい}を^をあ^あら^らう^うま^まい^いく^くあ^あら^らあ^あつ^つ平^{へい}
依^よして^{して}何^{なん}ど^どの^の用^{よう}ま^まら^らや^やあ^ああ^あせ
あ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふま^まが^がそ^それ^れは^は一
の^の後^ごの^のい^いま^まら^らう^うと^とれ^れら^ら後^ごト^ト
あ^あら^らう^うの^のあ^あら^らう^うと^とい^いふ^ふま^まが^がそ^それ^れは^は一

孔亮こうりやうはやどはりり聖日せいじつ長九ちやうく師し母
ううつつ〜〜い出い〜〜い世せ震しん歌か
同どう〜〜い長ちやう左さ妻つまつつがががが其まり
親おやままれたこははりりんんととままげげたたをを治ちららはは
高たか〜〜いまま保ほりり長ちやう九く師し母ぼおお意い
ののんん世せととおおささせせんんとと芝し濱は松まつ所ところく
けけががららんん世せととままららつつらら大だい和わををとといいよ
ののままんんととううけけたたをを親おや長ちやう左さ妻つまがが

より仕しああくくりりたたをを去きるる中ちゆう一いつ所ところ川がわへ
おお〜いらら西さいのの井いとと合あひひををおお〜いててよよい
むむらら妻つま婦ふ〜いららまま〜いららんんががああらら
〜いらら〜いららまま平へいららるる長ちやう九く師し母ぼ
かかままののうう〜いららまま〜いららるる伯おやぢ父ちち八はち
たた妻つまつつ幼おとこ年ねんととままららるる伯おやぢ父ちちのの父ちちががああ
〜いらら音おん信しんとと通つう〜いららままららるる多たくくめめんんととままららるるがが
十じゅう方ほうのの福ふくががひひまま〜いららるる娘むすめ〜いららるる子こ

布ぬいととげとせんとおのひーあり
くあ市いちを樹じゆ兄あに伊い帝ていを樹じゆかあり
くく花はな川がわ戸とのののの日ひにに戸と
ととくくひーたぐぬるとくく
廣ひろきき伊い戸との申まをううますとああのの
ののりりややももりりががひひかかつつららが
よよののひひかかつつららががひひかかつつららが
卵たまごの事ことめてていいたたれれままどどルルもも（む）む

伊い帝ていを樹じゆ兄あにととここれれららがが仲なつ方かたのの
ののどどののままちちらら人ひとめめささせせああららいいままをを
たたののててここししててどどくくままききのの場ば（む）
りりちちののせせみみののちち石いし塔たつととららうう
どどんんとといいせせががりり—雷かみかみががああららううりり
けけいいががんんををののちちららいいももああららうう—と
そそををししららららみみ放はな物ぶつととれれををゆゆててそ
れれいいままららららううりり第だい一いちととああ—

とんづくものども合せ八指余人
そのか子分る方兄弟分のものども
こののしよしよときひてあつらもの
於合ひ百余人めあよびくらぐして
放約兄弟荒々師と義をいえより
あひの事ありこれこれとまり
ゆちあはる腹筋とが一面着とま
のちそらめたよびくらあつまり

ある男あつてもある男はるる男
何と大さな移入しこれより他事
なぐまごころりらそのに男を
移はらものゝあひののあつら
とあざり江戸中とまひ一人
是とれそれざらふりこれども
一事とも不告の事とるさびを人
小見女子のあひとあつら

一途申めて俄るる諸次りき
節めいを人みよのまきいひて
能方と通しつらひの石を者ら
年寄のしをを肩ひるどしてつれ
こられハ人ごまの山宗一
まことつれれ三義と表と一少も
不旨の事つれハ仲方めてよも
一しつらちつれハ放釣は骨が
さす指

もて花川戸は節を世貴ハ
あのみとははひのありて
ゆさ一太極を積一
一あみあなるれハ人
又人男と稱一
男あればは繪次女と紅
一愛り買一
一世のあまよと

みちる時 印裏安き橋は落しは橋は走
とち 放物か方み事りゆし 花
川 師を借がし 福井町
もてけんさせ 雷活き借かその時
きづがゆみあひし 死のやみ
死し けあせんめも家紋
とちまのせしきが 縁とぶめてあ
ゆんじりしゆきが ありはのたこ

のうみで死んで仕とす どの仕
合のありしゆき なるもの
れ死きり、ゆはまがゆのいりるもの
ありそれゆきて 雷か方み居る浪
人のおきしゆき ちりし
そりけしゆきを けあどい西
の久保一 家紋し 大そりなる
なるよし どのころ 根か 川の時九

をちをいづきりーちまもいふはめて
もあひ仲方ちうかん少ちうものとをちうげけるがその
うへにいくもちりよけるにーそく
み多た收しゆたふくと放ほう釣てうがけとめよ
り江戸番八藏大目よりそびもや
少す江え希き一いつ也やもゆるあふふババ多たのんのんの
知ちををけけ付つききりりももとと江え海かいのの申まは
りうとておおいいととげげばばよよれれくくいいと

それより友人のよめいよははいいささう
とがとやつー西せいの久保くぼつんをぬり
りうふふ一いつのの大たい度どりうりうてて前まへみみ大たい塚づかを
か白しろの大門だいもんきよむむややららみみ塚づかををたたちちり
うけちのびるーい歳さいををめめてて門かどの
相あ手て服ふく形かたち震しんにに次つぎ孔くわう亮りやうもも表あらわれれたたあ
ーいままままババ江え希きををおおこれこれとといいててああののそ
安やすををおおががたたををりりとといいひひーいけけ家け

あんなもて尺八とやまゝあゝ〜揚子
目めい〜りてあまれが内より女
色を獲とが〜ればた〜いゝまゝきら
りらら〜くの〜はら事目〜みる
れば〜や見習われれて〜りかり
るんとばらん〜ん〜きあらん
衣らんと着〜し〜時〜はあ
りり時〜花と〜り〜衣らんと

いりゆりせ〜事り〜朝のきり
くま〜あま志あ〜り〜て〜の〜
〜り〜と〜い〜る〜
主人と〜え〜し〜美〜の〜
あ〜る〜と〜る〜小侍ち〜る〜の〜
ゆ〜ん〜海州〜極〜古の〜
〜も〜と〜を〜の〜
〜ら〜と〜い〜れ〜か〜ら〜事

三日月月母なりりれどもわたりてを
何しうりけんは命をたも人あは
かりてあるは物とぞ一皮包人の
やうきとんといひのごとく花川
戸よりなるごとく西の久保さう
てこれと来りけ梨

仇討天貞東洋繪實記卷之六

仇討天貞東洋繪實記卷之六

目録

- 一 服部震と仕立屋谷尾坊方舟の事
- 兼 服部八右衛門先見の長又
- 一 花川戸四郎と信長名光想の事
- 兼 對面之事
- 兼 四郎と信長名光想の事
- 兼 生捕り

仇討天貞東洋繪寫實記卷之六

服於震そら之赤あか仕立しだてを苦くみた方かたあり

兼あ報於あ八右衛門やえもん先見せんけんの支

家いへの服ふく於お震あ長ながく赤あかハ自分じぶん孔亮こうりやうと名な
をいひいくくり大和やまと屋や長九ながく席せきと斤しん付づ
万事ばんじんんのままみみりりれれバ何なんも

佐々八右衛門の如く、幼少の已びをせ
むやとまづ一ツ本なる仕立を昔々傳
へて、さあづいを人草履とらし
めしは、進んでいづら母の如く、昔々傳
家母の如く、平馬がけは、ぐくの如く、り
その如く、さく白み、くも、さるんて大
ひあおど、ゆき、たぐ、通、一別
い、素、と、かく、り、多、ぐ、今、ハ、ン、づ、く、さ、み

ゆ、庄、の、ろ、や、ゆ、お、夜、の、事、よ、て、も、ゆ、や
と、た、ぐ、の、り、れ、が、平、馬、ハ、羽、二、卷、二、卷
ち、り、り、ん、一、卷、今、又、と、白、み、や、ず
こ、し、て、持、系、一、こ、れ、ら、事、を、え
の、大、あ、ん、あ、ゆ、り、一、と、う、ち、こ、は、ま、ま
い、ん、あ、ん、と、る、り、ぐ、い、れ、が、夜、と、ま、も
あ、ち、く、と、ん、一、久、く、浪、の、身、と
る、り、一、か、よ、と、一、事、よ、て、こ、り、か

藝洲と申つて言巻の人のついで
あつたゆゑに西の久保八幡ありて
宅せりまゝ前の石毎ハなんざん
りもあつたりんやつてたぬらむせ
これハ己がすまゐりとうやくと
春物着代とてしあつて道ハ昔
ハ且悦びうらわおどろき何事と
一車ハあつたといふりしまそのぶ

とく西之身ハ己まゝあつてし
大妻よこのうらむ一己まゝと
しとてはとつとよりやを
た今より胡著何とて多
のちのよあまはかきつてゆるくと
糸らほしはひては先づつてか
り同ぜんましくせし金子又有利
分めてもそへてあつたははるま

しんとうとていふことなればきかたり
入るものいふ事有りかたもてま
るしそとて店名の所なりまは父
ハちぢりが事なりかきかあひか
何れいふことなきさるもの知る由り
あ親の思よりいふこと何とてま
るのそりもちとてつて作父はあ
あびことしていざんのでいふ

しんとうはうとなまきいふことびり
作ていふことや年も満ちりけが
しんとうし事なればあてび團
いかりあ親もたはめんしん
古々いふれがしんとうは事なり
何とていふこと(作宅をみるめい
あひこといふれがあて(作父が
しんとうびたのこいふことあて

え替もよろこびそれハ何トりの松
し知れし事一若きとまひるるれ
しもろびづみはり事なれが
只今かくのぞくのゆみ分ともの
かこりやるがぢきみゆみ
何るぞ明日のそらくは
まじきしきくは身のうち
やしとらるるしりらびり

さんとしきくはりらるる
梅ハ家(か)かり女房(にようぼう)か
しゆのゆめは石(いし)のく
なりゆりあしとあこり
ものるりあまゆみのうま
てハ平(へい)なる友(とも)は八(やち)ち
のゆめはたのむ事
しごとくあるしはれは

のやうに申さるゝと申して西の久保
震に家かへし御祈り申しつゝの
らむそらうありと申す女山サトの衣イを
とつんまりて御祈り申す一筆
三つとあぐたをまゐるどかりその極
かあしうちうけ申すぞうく申すこと
まゝの日にころを祈り申す余人の
よまあしうちうけ申すぞうく申すこと
節せうのきんぬらざるもや主人とたがじ
まゝの日にころを祈り申す
あやまきこころより申す
いやとたぐひのうらまはなるあまの
まゝ人あへるあま事しあまざれば
あませんうらまはなるあまの
二ヶ月あつた七夜なつたのひの雨あめの目めを
しるはるあまの事しあまざれば

くばをさるといひゆりのむぐいし
およびうらみする時人目な
かめいど天満文へ糸襦へ
襦とこのり喜風と後とさる
水茶をみ入りてやして居へり
七十斗うらむ人の髪女の白毛
てむげハむのハ多きて白が
とりのいへまたもてまが茶の

どんまの羽織をあまの少袖
さのめやの大小を帯へ
法へをばまこれハ天神へ
してちやゆへ入てやして
を袖ハあま人を法へ
さそへたのへがハ
るいりんすりハ
ハあまのりハ

石志ん丹ありいこれくが網はそ
ソグくいめては目かかりや志郎
仕ゆと差へればかの老人うちこふ
ひたそそ何らんこまきふあとい老
仙春白石の城下田村ままうりり
りー倉光あつた建りりこまき志を
らくかーはまゆふんとたのひらま
城まよりめーりも仕官との

ごまびくしてそりーのひとさり
しほりぬあ人あそのせつのはねひ
ソまぶぬ物せびくしーといひら
あは希をばま流大まきまあらまは
こまそのせつ津教仕ゆあこり
こまそふ石明りてる教と志郎仕
失礼まら平ゆらんりまらーねを
のそりたごるまねがひのせと成

くらみころのハ貞享元甲子年二月廿
日のちらとらうらまやいふけこころ春の
日のくらハ一一のどのどらみてはるのう
はまもらうらうらみ梅枝めうらま
うらみはて雲井みさくはるひむりの
とくはら梅うらまころらりらうらが
は帝を指ハ義あるハころらりし
をゆくまきりしハウるん日のことる

ハ龜井戸天満文のうらま下大新成統
といのりらうらまふけりハ菅神の由
まうらましてはくこまきくする神ん
さうらまの日月して延喜三年二月
亦ハ日太宰府みれあて豊どのうら
四年ハ十九年とらうけたるうらま
神靈利益致千年のいふみソるら
まのでなまらみかこころまして諸歌

あそびは神を御さ道りりりかこそ震る身
とんそげけんと菅神の加護天の
何と一とよろそび玄冥のかつらりま
むらへ居らとと後小震る身かかくとも
あそびのびかびみうちりの佐人大勢
めははま(あ)けり来り玄冥あそびあよ
りあしあまは神を御これとんれば
あそびあそびしてよろこく夜あそび

かざりたてわがひばりりの大小とて
何れこれ法度の中師範とこそとん
しころ人(あ)がるれども己か多事たぐ
ぬし倉老(あ)次存あまがよあそびあ
らぎらあま震る身あわが佐人あ
竹成(あ)身(あ)さしとよらん(あ)とよらん(あ)と
は神を御一さん(あ)と(あ)り(あ)りの
あそび(あ)り(あ)を(あ)は(あ)る(あ)んで(あ)あ(あ)そ(あ)び(あ)く(あ)待(あ)た(あ)す(あ)

さきさきがまに度々ひらき大オシ割きりるわんわんか
とちつちのす地せんちもなごいひもあつて
のあゝるれはとんでにさうちん
るう後ごもわーそいばかどめらんで
えんえん物ものはさかろちりうらば希まれに
震ゆるゆみとくくとめーかかれも
より大オシ力ちからをたおの仁王におうのちんら
ごいごいはは寸すんををごねぢらひ

江戸を傳つたふ多年ねんの秋あきひひ神かみ力ちからこ
ごまよりけん石いしをたごーごん玄げん冥みやうさ
きいさんく震ゆるゆみとつてあさ
うでねぢらひげてうちまごいりな
んどたしうみゆべーてん天和てんわ
元年九月廿八にちハリの夜よが伯父おぢををみ
うけはい具ぐももぢぢががままここれらも人
まんどとたぐぬら事ことえら年ねんその内

一車あやなるあやと名をのりいさう
由あやに希あやき書あやいさうんてあやころあやさうんあやああや
夜あやをあや〜とあやあてあやけ

仇討天貞東錦繪實記巻之廿六終

あつま

あつま

あつま

錦

繪

錦

繪

あつま

あつま

あつま

あつま

あつま

あつま

錦

あつま

あつま

